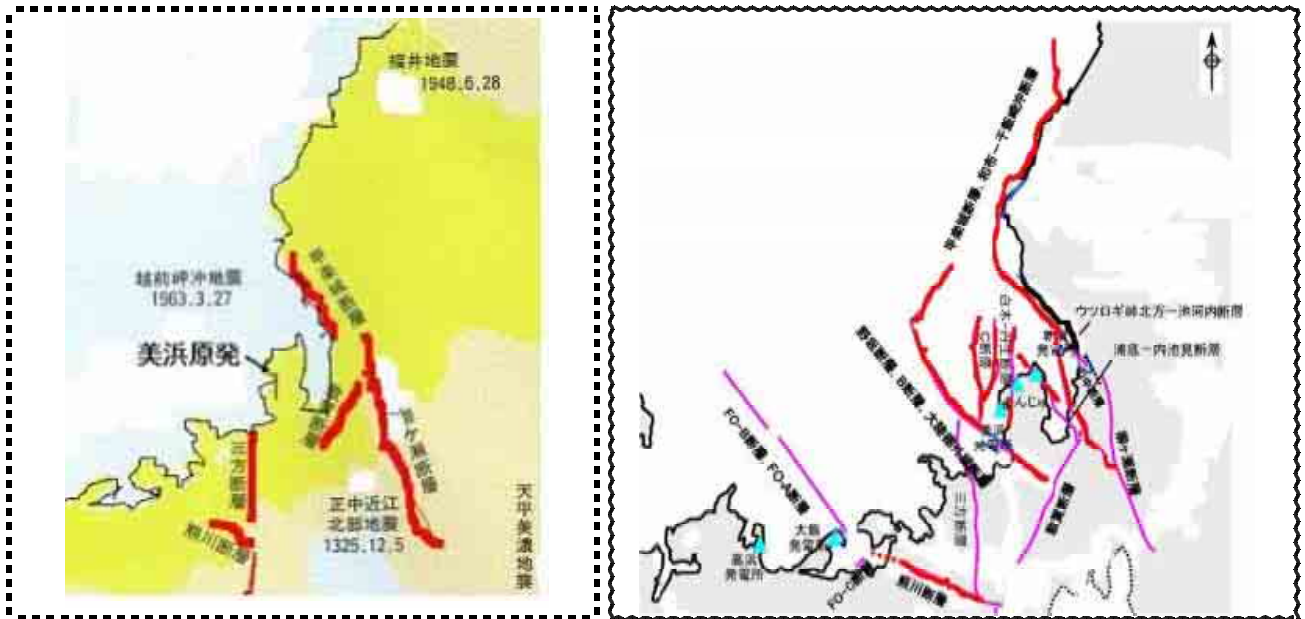


老劣化が進む美浜原発1号炉の40年を越えての 運転なんてとんでもない! 認められません!



左の図は、阪神・淡路大震災後、 右の図は、最近の活断層について

(活断層があるところには建てないはずの原発だったが、直下と周辺に、実は活断層がいっぱいあることに。)

敦賀半島に林立する美浜原発、もんじゅ、敦賀原発の直下と周辺に大きな地震をもたらす活断層が走ることが明らかとなりました。しかし、原子力施設には小さな地震動しか襲わないというごまかしをして、原発の延長をはかっています。

若狭ネットは、「地震と原発問題」で、いかに関電は地震の規模を過小評価し続けてきたのか、その問題点を明らかにしてきました。

- ・ 原発の周りには大きな地震をもたらす活断層があること、
 - ・ 活断層の長さを過小評価していること、
 - ・ M7.3の直下地震はどこでも起こるので、地震規模を想定し直すこと
- などを粘りつよく関電や国に対して追及をしてきま

した。国もこのような問題について、検討をしてきました。しかし、落ち着くところは原発の周りでどんなに大きな地震が起こっても原発施設には原子炉設置時の2倍程度の耐震性を考慮すれば大丈夫だということで、耐震性の問題を終息させようとはかっているのです。これはとんでもないことです。

現実にかかる地震の規模をできるだけ大きく見積もれば、発生する地震動も大きく見積もるのが当たり前なのですが、電力会社は巧妙に都合のいい計算式を導入して、さも安全であるかのようにふるまっています。原発の推進に手を貸す御用学者たちも悪知恵をしぼって「安全」だと援護射撃をしています。現実には地震が起こると、「想定外だった」と、いうだけで、すましてしまう御用学者た

ちは、原発事故が起り、深刻な被害の責任などとれるはずもないのです。

私たちは、このような巧妙なごまかし報告書に対して、電力会社や国に対して公開質問書を提出し、耐震性の問題を鋭く追及していきます。

ナトリウム火災事故で14年も運転停止の「もんじゅ」の運転再開に反対しましょう。

夢も希望もない原発・核燃料サイクルの開発をやめ、再生可能エネルギー開発に全力を挙げるべきです。循環型社会構造を作り、大量生産、大量消費、大量の使い捨て社会にピリオドをうつべきです。国や電力が、CO2の削減のためには原発推進をという宣伝の費用こそが、無駄な浪費を生んでいます。関電が宣伝する「オール電化」システムは、余る電気(夜の電気)を使わせるための苦肉の策であり、原発からできる電力が余って

る証拠です。電気エネルギーだけの社会は、災害にもろい社会システムです。

私たちは、原発の持つ問題点を再度訴えます。原発の重大事故の危険性、労働者ヒバク問題、いつヒバクさせられるかという不安な中で生活を強いられている問題、使い終えた「核のゴミ」を安全に処理できない問題、原発からでるプルトニウムをエネルギーにしようと考えてきた核燃料サイクルの破綻、高速増殖炉開発が夢物語である現実など、原発・核燃料サイクル政策からの撤退が求められているにもかかわらず、そこにしがみついていた人々が未だに反省もせず、何らの責任もとろうとしない体質など、追及しなければならない課題は山積みです。

美浜1号や敦賀1号炉の寿命延長に反対し、もんじゅの運転再開に反対していきましょう。

関西電力株式会社社長 森 詳介様

2009年11月8日

原子力発電所の延命策をやめてください

貴社が、美浜1号炉の運転をさらに10年延長すると、福井県に伝えたとの報道がありました。来年11月で運転開始から40年を迎える美浜原発1号炉(34万kw)の運転をさらに10年間延長する方針を固めたというのです。さらに、福井県に美浜1号の運転継続を報告したあなたは、「安全性が確保され、国で保安規定が承認されれば、40年以降も継続して運転するのが普通の考え方ではないか」と述べ、今後も長寿原発の継続運転を示唆したと、伝えられています。

私たちは、貴社に対し、「もう、原発から脱却してください。」と、強く訴えます。

原発の耐用年数が過ぎてしまった原発を延命させ、「いつ何時原発重大事故が起こるのかもしれない」と、毎日不安に思い生活を強いられてきた地元を始め、周辺住民に、さらに不安な日々を強いられる期間を10年も延長させるなんてもってのほかです。

老朽化が進み、若狭湾で起きる地震による被害が心配される原発を延命させることは、安心して、

幸せに生活する権利を奪っていくことです。

原発の延命はやめて下さい。

高経年化や劣化に伴う事故は避けられず、原発重大事故にいたる危険性を高めます。

「小さな問題だと放置し続け、しらぬ間に大きな事故につながることを何度経験したら、貴社は脱原発へとすすむのでしょうか。

貴社の原発の安全管理システムは、これまで十分機能していたのでしょうか。劣化損傷しやすい配管などをこまめに検査するチェック体制はできているのでしょうか、傷が小さなうちに修理する積み重ねはできているのでしょうか。膨大な検査を書類チェックですましてしまう検査制度のもとで、貴社は事故を繰り返してきたのではないのでしょうか。

もう原発の発電に頼る社会からお別れしたい、自然に優しい再生可能エネルギー社会へと願っている人々が増えています。

貴社の美浜1号炉の原発延命策を撤回して下さい。

今後の予定

12月5日(土) 午前11時

09もんじゆを廃炉へ！全国集会

白木海岸抗議集会と 原子力機構申し入れ

午後1時半から 敦賀市民文化センターで 全国集会

連絡先: 原子力発電に反対する福井県民会議 0776-25-7784

12月20日(日) 午後1時半から4時半

チェルノブイリヒバクシャ救援関西発足18周年の集い！
現地訪問報告会

場所: ドーンセンター5階セミナー室

(地下鉄谷町線「天満橋駅」下車徒歩5分)

主催: チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西 0797-74-6091

12月25日(金) 午後6時より

関電交渉 「公開質問書の回答を」 (予定)

関電本社前集合 (地下鉄四つ橋線「肥後橋」駅下車徒歩7分)

「編集後記」

- ・ 10月3日、東京での集会に参加しました。各地で運動をしている方々とお会いすることができ、楽しい出会いです。和歌山の日高原発反対で闘った方、川内の方、上関の方、福井の方、福島の方、浜岡の方々等々、国会議員さんにも会って今後の運動への応援をお願いしました。
- ・ 10月18日には、上関原発反対集会に上関まで行きました。車で6時間かけて駆けつけると、現地の漁師のおじさん、おばさんにお会いし、元気をもらいました。生活をかけて反対している人々の熱い思いを共有でき、ここでも頑張らねばという強い志を再確認しました。また、若い人たちがが運動に参加し、一緒に闘っておられる力強さも実感できました。反原発は、自分たちの生活を守り、生活を育てていく運動です。国のエネルギー政策を大転換させねばなりません。その力が今まさに求められているでしょう。上関原発反対署名に取り組んでいます。
- ・ プルサーマル計画を推進しようと 関電はMOX燃料製造をフランスのメロックス社に頼みましたが、どうもMOX燃料を安定的に製造するのが非常に難しいという基本的な問題にぶち当たっているようです。ウランとプルトニウムを混合させることは、実は非常に難しい技術なのです。関電が、企業秘密として大事なところを公表しないのは、この根本的な問題が潜んでいるように思えてなりません。危険さわまりないプルサーマルに、反対の声を上げていきたいものです。
- ・ 私どもへの送り先が、変更されています。今後の送り先は、以下の住所をお願いします。

「新住所」 〒583-0007 藤井寺市林5-8-20-401

きよ子